

## 5 第3期行動計画での再生目標

### 5.1 健全化計画における5つの目標

恵み豊かな印旛沼・流域を再生するために、健全化計画では、5つの目標が設定されています。

#### 5つの目標

##### 良質な飲み水の源 印旛沼・流域

印旛沼は、多くの千葉県民の水道水源です。命の源である水源が良好に保たれる印旛沼・流域を目指します。

##### 遊び、泳げる 印旛沼・流域

かつて、印旛沼や河川は、子どもたちの遊び場でした。  
人々が水にふれあい、遊ぶことのできる、水が清らかな印旛沼・流域を目指します。

##### ふるさとの 生き物はぐくむ 印旛沼・流域

かつて、印旛沼や流域では、多様な生き物がはぐくまれていました。印旛沼の水質悪化や流域の都市化、外来種の侵入等により、沼本来の生き物が減少しています。多様な生き物を呼び戻し、ふるさとの生き物が生息・生育できるような印旛沼・流域を目指します。

##### 水害に強い 印旛沼・流域

かつて、印旛沼・流域は、洪水による大きな被害を受けてきました。今でも大雨の時には、浸水被害等が生じています。  
大雨でも大きな被害を出さない、水害に強い印旛沼・流域を目指します。

##### 人が集い、 人と共生する 印旛沼・流域

印旛沼・流域は、私たちに様々な恵みを与えてくれます。それを再認識し、地域の宝としてはぐくんでいきます。  
人々が集まり、人々とともに生きていく、活力と誇りにあふれる印旛沼・流域を目指します。

## 5.2 目標の達成状況を評価する指標

健全化計画における5つの目標の達成状況を評価する指標について、第3期の目標値を設定し、目標の達成状況を評価します。この指標は、第3期での取組状況に応じて、柔軟に見直します。

評価指標	現状 2020(令和2)年度	第3期における目標 2025(令和7)年度	健全化計画における目標 2030(令和12)年度
①水質 クロロフィル a COD	★クロロフィル a <sup>※1</sup> ：年平均 100μg/L ★COD <sup>※1</sup> ：年平均 10mg/L	★クロロフィル a ：年平均 110μg/L 以下 <sup>※6</sup> ★COD ：年平均 10mg/L 以下 <sup>※5</sup>	クロロフィル a ：年平均 40μg/L 以下 COD ：年平均 5mg/L 以下
②アオコ	★アオコ発生レベル 2~4 程度 で確認されている	★アオコの発生が目立たなくなる	アオコが発生しない
③清澄性	★透明度 <sup>※1</sup> ：0.47m 程度	★透明度が改善する (0.4m 程度 <sup>※6</sup> ) ◆植生帯整備箇所において透明度 が改善する	岸辺に立って沼底が見える (透明度 1.0m 程度)
④におい	★取水場で藻臭及び下水臭が発生 している	★臭気が少なくなる	臭気がしない
⑤水道に 適した水質	★2-MIB <sup>※2</sup> ：年最大 0.068μg/L ★トリハロメタン生成能 <sup>※2</sup> ：年最大 0.231mg/L	★2-MIB、トリハロメタン生成能が 改善する	2-MIB ：年最大 0.1μg/L 以下 トリハロメタン生成能 ：年最大 0.1mg/L 以下
⑥利用者数	★最終年で最小となっている (コロナ過による影響と考えられる)	◆佐倉ふるさと広場の来場者数、道の 駅やちよの来場者数が増加する ◆サイクリングの利用者数等が増加する	増加する
⑦湧水	★加賀清水遊水池で枯渇が発生 している(降雨量が少ない日が 継続した影響と考えられる)	★注目地点での湧水が枯渇しない ★低水流量が増加する <sup>※7</sup> ◆谷津(取組箇所)の湧水が枯渇しない ◆谷津(取組箇所)において湧水の水質 が改善する	印旛沼底や水源の谷津で豊かな 清水が湧く 湧水水質 硝酸性窒素及び亜硝酸性 窒素：10mg/L 以下
⑧生き物	★ナガエツルノゲイトウの繁 茂は確認され、運転障害など 治水リスクは残っている ★植生帯整備箇所では水生植 物群落が保全・再生されてい る(ただし、植生遷移により 沈水植物は衰退傾向)	★特定外来生物の被害を軽減する ★水生植物群落を保全・再生する ◆耕作放棄地の湿地化等により湿地 性生物が保全・再生される ◆植生帯整備箇所の水生植物群落 が保全・再生される ◆植生帯整備箇所の生物多様性が 維持・向上する ◆系統維持拠点の沈水植物が維持・ 保全される	在来生物種が保全される かつて生息・生育していた 生物種(特に沈水植物)が 復活する 外来種(特に特定外来生物) が駆除される
⑨水害	★鹿島川や高崎川等での浸水被害 や、印旛沼の水位上昇に伴う堤 防からの漏水が発生している	★治水安全度が向上する ◆取組箇所(地先)での治水効果 が発現する	概ね 30 年に一度の大雨でも大 きな被害を出さない <sup>※3,4</sup>

※1：西印旛沼「上水道取水口下」地点の値を記載しています。

※2：2-MIB、トリハロメタン生成能は、「柏井浄水場原水」の値を記載しています。

※3：印旛沼における目標で、「手賀沼・印旛沼・根木名川圏域 河川整備計画」(2007 年 7 月策定)の目標年次は 2037 年です。

※4：河川整備を進めるとともに、流域全体での被害軽減に努めます。

※5：COD の目標値は、印旛沼に係る湖沼水質保全計画(第 8 期)の値を設定しています。

※6：クロロフィル a と透明度の目標値は、COD との相関関係より設定しています。

※7：注目地点だけでは、流域全体の湧水を評価できないことから、湧水の流れが集まる河川の低水流量の観測を行い、湧水の状況を把握します。

★：健全化計画における目標(5つの目標の達成状況の評価のために設定されている指標)に対しての現状(2020 年)や第3期での目標(2025 年)

→現状(第2期での達成状況(詳細は 12,13 ページ参照))を踏まえて、第3期での目標を設定

◆：部会での取組を中心に健全化会議が推進力となって進める第3期の取組の効果を評価する視点から設定した指標

→取組箇所(地先)において実現しようとする(効果)を評価するために設定

→第3期における取組状況や新たな取組の実施状況等を踏まえ、柔軟に指標の追加や見直しなどを実施

### 5.3 モニタリング

目標の達成状況を把握するため、各評価指標について、各実施主体が役割を分担しながら、必要なモニタリングを実施します。また、研究機関等と連携し、データを提供いただき、目標の達成状況の把握に努めます。評価指標を見直した場合等、モニタリング内容も必要に応じて柔軟に見直します。

#### 目標の達成状況を評価するための指標等のモニタリング

評価指標	調査項目	調査地点	調査頻度	調査主体	出典
①水質	水質(クロロフィル a、COD、窒素、リン等)	上水道取水口下等 沼内 4 地点 流入河川 9 地点	月 2 回	千葉県	公共用水域 水質調査
		舟戸大橋等 3 地点	月 1 回	水資源機構	水質調査
②アオコ	見た目アオコ指標レベル	15 地点	週 1 回 (夏期)	水資源機構	定期調査
③清澄性	透明度	上水道取水口下等 沼内 4 地点	月 2 回	千葉県	公共用水域 水質調査
		植生帯整備箇所 1 地点 (臼井田 1)	月 1 回		植生帯モニタリング
④におい	臭気	印旛取水場	月 1 回	千葉県	柏井浄水場 (原水)の定期 水質調査
⑤水道に適した水質	2-MIB トリハロメタン 生成能	印旛取水場	月 1 回	千葉県	
⑥利用者数	利用者数	佐倉ふるさと広場等	随時	佐倉市観光協会 等	佐倉市観光 協会等による 調査
		水辺拠点	研究機関等との連携 (情報共有)		
⑦湧水	湧水量	加賀清水	連続	千葉県	※1
	湧水状況	佐倉市内(公共用地)	年 6 回程度	佐倉市	各実施主体 の調査等
		根古谷の湧水	連続	八街市・市民	
	地下水位	吉高観測井の地下水位	連続	千葉県	※1
	河川流量	主要流入河川の流量(7 地点※3)	連続	千葉県	※1
	湧水量、水質	谷津の取組箇所	研究機関等との連携 (情報共有)		
⑧生き物	植生図作成	印旛沼全域	5 年に 1 回	千葉県	※2
	生物調査	植生帯整備箇所	5 年に 1 回	千葉県	※2
		谷津の取組箇所	研究機関等との連携 (情報共有)		
	特定外来生物 による被害	大和田排水機場等	随時	水資源機構	現地状況
⑨水害	水害区域面積	流域市町	毎年	千葉県	水害統計
	治水効果	谷津・水田等の取組箇所	研究機関等との連携 (情報共有)		

※ 1 : 第 1 期から継続実施している健全化会議による観測

※ 2 : 2024(令和 4)年度実施を予定(計画最終年に評価するためにその 1 年前に実施)

※ 3 : 鹿島川(鹿島橋)、高崎川(竜灯橋)、手繰川(無名橋)、師戸川(師戸橋)、神崎川(神崎橋)、桑納川(桑納橋)、印旛沼放水路(八千代橋)



# 健全化計画及び第3期行動計画の体系図

